

平成26年5月25日
今週のベストショット



雁レク軟式3 レッドサンデーズ 対 ブルーマーリンズ戦

先制、ダメ押しの2HRレッドサンデーズ江口宏之選手。 無死一三塁のピンチをたった3球で救った土師猛投手。

写真：塩浜ジャガーズ 高嶺信彦

青松園B ホーネッツ辛うじて逃げ切り。

三苦ホーネッツ（3勝）3 1 1 0 0 0 5 矢野○ー広木

新町パイレーツ（2敗）0 1 0 0 0 3 4 吉田●ー桐島

3BH：松尾（三苦ホ）中島（新町パ） 2BH：矢野、松尾（三苦ホ）吉田（新町パ）

一回表ホーネッツは洲上選手の内野安打と矢野選手の二塁打で一死二、三塁とし広木選手の三塁ゴロの間に先制、続く松尾選手の三塁打とワイルドピッチで計3点を先取。さらに二回には相手エラーで1点を加える。パイレーツは二回に相手エラーの間に中島選手が帰り1点を返す。しかし、ホーネッツは三回に今田選手のヒットなどで1点加え5-1とする。ホーネッツ矢野投手はテンポ良く投げ、試合終了まであと一人となりホーネッツ勝利も濃厚と思われた六回裏二死、パイレーツ桐島選手が相手エラーで出塁すると大濱選手は四球を選び続く吉田選手の二塁打で2点、中島選手の三塁打で1点を返し土壇場で1点差に迫る。さらに二死三塁と一打同点引き分けの大チャンスが訪れるが田村選手は無念の見逃し三振に終わりゲームセット。辛うじてホーネッツが逃げ切った。あきらめず最後まで食い下がったパイレーツは賞賛に値するも惜しい敗北となった。

（記事、写真：ソルトベイスターズ 田中裕次郎）



完投勝利のホーネッツ矢野投手。



好投するパイレーツ吉田投手。



初回、二塁打を放つホーネッツ矢野選手。



初回、レフト線へ三塁打を放つホーネッツ松尾選手。



バントで相手を揺さぶるホーネッツ州上選手。



迫力のクロスプレイ！



好守のパイレーツ八坂三塁手。



捕れるかキャッチャーフライ。パイレーツ桐島捕手。



六回裏2点を返す二塁打で食い下がる吉田選手。



六回裏1点差まで迫る3塁打を放つパイレーツ中島選手。



最終回思わぬピンチにピッチャーを励ます広木捕手。



あと一歩で敗北を喫し悔しがらるパイレーツナイン。

奈多グラウンド ヒーロー不在

三苦フレンズ (0勝2敗) 3 2 0 0 0 5 生野(拓) ● - 佐藤

三苦三球会 (1勝1敗) 0 4 1 2 0 × 16 吉留○ - 藤澤

HR: 西山(三苦フ) 3 BH: 藤澤(三球会) 2 BH: 生野(拓)(三苦フ) 盗塁: 生野(拓)(三苦フ)

初回三球会の吉留投手は制球が定まらず、一、二番を歩かせ三番生野(猛)選手にライト前を打たれ無死満塁のピンチ。四、五番を内野ゴロホームアウトに打ち取り二死満塁。しかし六番寺山選手のレフト前ヒットにエラーで2失点。さらに七番御手洗選手の時 WPで初回を3失点。一方フレンズ生野(拓)投手は、四死球でランナーを出しながらも無失点で乗り切る。二回からは三球会吉留投手も立ち直りを見せたが生野(拓)選手に二塁打を打たれ、次打者西山選手には、中越えHRを打たれフレンズの流れをなかなか止められない。しかしこの流れを止めたのはフレンズ生野(拓)投手。二、三回で7四球、3死球、5エラー、被安打3本で計16点を三球会に献上。大量点をもらった三球会は本日ベンチ登録メンバー全16人全員が試合出場を果たした。

(記事: 新町ウインズ 桐島司、写真: 城戸和裕)



尻上がり調子で上げた三球会先発の吉留投手。



出だしは良かったが・・・フレンズ先発の生野(拓)投手。



初回、盗塁を決めるフレンズ一番生野(拓)選手。



先制のタイムリーを放つフレンズ六番寺山選手。



足にデッドボールで痛そうな三球会渡辺選手。



軽快な守備を見せる三球会の堺(達)選手。



右中間越えの二塁打を放つフレンズ生野(拓)選手。



センターオーバーHRを放ったフレンズ二番西山選手。



ピンチの連続でマウンドに集まるフレンズ内野陣と亀井監督。



レフト前にクリーンヒットを放つ三球会の右山選手。

雁レク野球場3 赤 v s 青は赤勝利！

レッドサンデーズ（1勝1敗）103012 7 江口○、土師一荒口

ブルーマーリンズ（0勝2敗）001000 1 網脇●、横山一尾田

HR：江口2（レッド） 盗塁：八島（レッド）

先攻を勝ち取ったレッドサンデーズは、先頭の江口選手がいきなり本塁打を放ち先制すると、三回には3四球と悪送球、暴投が重なり内野安打1本ながら更に3点を追加、序盤はレッドが試合の主導権を握る。一方ブルーマーリンズは三回裏に2安打を集め、まず1点を返す。続く四回に代打攻勢により四球と敵失で無死一三塁の好機つくると、レッドの先発江口投手と稲又一塁手に故障が発生してしまう（稲又選手は交代）。ここで1人しか控えのいないレッドベンチが俄に慌しくなり、投手交代と内外野の入れ替え、梅野監督の緊急出場（サード俺！）で懸命の防戦に入る。両チームのベンチの声が一際大きくなる中、試合の流れは確実にBマーリンズに傾いた。しかし荒口捕手が二盗を阻止すると、緊急登板した土師投手が後続二人をピッチャーゴロに打ち取り、見事3球でこのピンチを無得点で切り抜けた。逆に五回に1点を奪ったレッドは、六回にも江口選手がこの日2本目の本塁打を放ち試合を決定付けた。最後に点差は開いたが、主導権が行きつ戻りつの見応えのある試合となった。（記事：塩浜ジャガーズ 高嶺信彦、写真：稲富甚太）



本塁打2本！レッドサンデーズ江口選手！



好救援！レッド土師投手の控えめなVサイン。



2安打2打点のレッド五番前田選手。



今季から外野に転向し、初安打のレッド四番八島選手。



2本目のHRへ本塁突入！レッド江口選手。



猛打賞のブルーマーリンズ五番尾田選手。



代打俺！ブルーマーリンズ小柳監督のバント。

青松園A フェニックス池見、今林（勇）両投手の好投で完封リレー！！

奈多フェニックス（3勝0敗）020011 4 池見○、今林（勇）一実延（新）
 三友クラブ （1敗1分）000000 0 福山●、足達一谷崎

3BH：柿崎（三友ク） 2BH：池見（奈多フ） 柿崎（三友ク） 盗塁：高原、西藤（奈多フ）

一回表、三友クラブは先頭の柿崎選手の左中間を破る長打で先制かと思いきや、フェニックスのセンター高原選手、ショート今林（勇）選手の見事な連携プレーで本塁で刺殺。好守により勢いのついたフェニックスは、二回表、先頭の五番今林（英）選手がレフト前安打で出塁すると、七番池見選手のレフトフェンスギリギリの二塁打で先制をする。続く八番沖選手に適時打が飛び出し、この回2点を挙げる。フェニックス先発の池見投手は安定したピッチングで四回を投げ3安打無失点の好投。リリーフした今林（勇）投手も二回を投げ無失点。フェニックス好投手二人による完封リレーだった。敗れた三友クラブは、一番柿崎選手が3打数3安打一人気を吐き、得点のチャンスを作るも、それをモノにできなかった。（記事：雁ノ巣ライナース 明瀬 旭 写真：今林 貢）



四回を投げ3安打無失点と好投のフェニックス池見投手。



三友クラブ先発の福山投手。



一回表、先頭打者で長打を放ち三塁を回った柿崎選手。



惜しくもホームでタッチアウト！



華麗にバント処理をする池見投手。



先制のホームを踏むフェニックス今林(英)選手。



リリースした三友クラブ足達投手。



完封リレーの二人目フェニックス今林(勇)投手。

第4週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

新WSLのHPには下記のURLから入って、お気に入りに追加してください。

http://sports.geocities.jp/yassie_840/WSLHP1.html

また新入部員獲得にも役立てて下さいね。

第4週、5月25日は4試合が行われました。

青松園Bの三苦ホーネッツ対新町パイレーツ戦は、初回に上位打線で先制したホーネッツが点差を広げ、楽勝かと思われたが、1安打に抑えられていたパイレーツ打線が土壇場の最終回二死から目覚め、1点差まで迫ったが一步及ばず5-4でホーネッツの勝利。初回の得点率の高いホーネッツに先制を許して勢い付かせては手が付けられなくなります。各チームホーネッツの初回を抑えることに全神経を集中することをお勧めします。パイレーツは全18アウト中9つがフライアウト。打ち上げてばかりでは勝てませんね。

奈多グラウンドの三苦フレンズ対三苦三球会戦は、序盤フレンズペースだったが生野(拓)投手の乱れから三球会が一気に逆転。三球会がわずか3安打ながら12四死球で5-16の勝利。フレンズは山口投手の代りに試合前に急遽登板を言い渡された生野投手の制球力に懸けるしかなく、代りの投手の登板はなかった。とりあえず下投げでもいいので目先を変えるために別の投手起用はなかったのだろうか？

雁レク軟式3のレッドサンデーズ対ブルーマーリンズ戦は、初回レッドの江口投手の先頭打者HRで先制すると三回表に1安打で3点。しかし調子の悪い江口投手はBマーリンズ打線に三回裏谷山選手のセンター前タイムリーで1点返されるも、追加点はレッド八島中堅手が捕殺で防ぐ。レッドは四回裏、無死一三塁のピンチに登板した土師(はじ)投手の初球に走ったランナーを荒口捕手が二塁で刺すと、続く二人のバッターを投ゴロに打ち取りたった3球、無失点で切り抜けた。レッドの元気良さが目立った試合だが、怪我人が出て手薄な人員で今後が心配される。Bマーリンズは五番小田選手が3打数3安打と気を吐いたが、決定的な一打を欠いたこと以上に、無死一三塁で簡単に盗塁死したことが問題だ。

青松園Aの奈多フェニックス対三友クラブ戦は、初回を見事な連係プレーで先制を防いだフェニックスが二回に4安打を集め2点を先制すると、効果的な終盤の2点を加える。投げては池見、今林溜生両投手のリレーで完封勝利。三友クラブ一番の柿崎選手は若さを生かして3打数3安打。あとHRが出ていればサイクルヒットでしたね。しかし4打席目は回って来ませんでした。三友クラブは開幕戦とこの2試合で未だ点を挙げていません。点を取らないと勝てませんから、次回に期待です。

プロ野球は交流戦真っ盛り。普段対戦しないチームとの対戦は面白いですね。オープン戦とは違った本気の対戦が楽しめます。

WSLはリーグ戦とは言え、年一回の対戦しかありませんから、全試合本気で行きましょう！